

つくって遊んでつながる心

— 工作活動を通じた自然な関わりが生まれる交流 —

交流及び共同学習の詳細 「特別支援学校 小学部 2年生 2名 と 小学校 2年生との交流」

○取組内容

- ・生活単元学習「せかいでひとつわたしのおもちゃ」と、交流籍校の生活科「おもちゃづくり」を関連させ、紙コップロケットや紙コップおばけの製作を行った。
- ・児童は、はさみで切る・絵を描くなどの活動を自分で行い、交流相手と自然に関わる姿が見られた。
- ・読み聞かせや誕生日会など、事前の交流経験が安心して活動する土台となった。

○取組の工夫

- ・3回の事前打ち合わせで活動内容・材料・座席配置を確認した。
- ・工作が得意な児童の興味を生かした題材設定により意欲を高めた。
- ・保護者にも材料準備を協力してもらい、活動への主体的な参加を促した。
- ・保護者がグループに入り、温かく自然な交流が生まれる雰囲気づくりにつながった。



○取組の効果

- ・おもちゃを媒介にして、自然なコミュニケーションが広がった。
- ・集中して取り組み、完成作品を伝えようとするなど達成感が見られた。
- ・「一緒に活動できて楽しかった」という声も聞かれ、仲間と一緒に活動するの楽しさを実感できた。
- ・保護者からも「また参加したい」との肯定的な意見が得られた。
- ・今後の誕生日会への参加など、継続した交流へ発展している。

音とリズムがつなぐ わかり合う心

—音楽・自立活動を通じた温かい交流—

交流及び共同学習の詳細 「特別支援学校 小学部3年生 と 小学校3年生との交流」

○取組内容

- ・自立活動「手拍子でリズム」と小学校の音楽を関連させて交流を実施した。
- ・自己紹介、質問タイム、演奏鑑賞、リズム活動、給食・昼休み交流を行った。
- ・給食や昼休みでは、多くの児童に囲まれる中でも、落ち着いて過ごし、友達からの声かけにも穏やかに応じることができた。

○取組の工夫

- ・電話による打ち合わせや学校訪問を通して、活動内容や安全面を事前に詳しく確認した。
- ・交流籍校では、歓迎カードや飾りの作成、質問内容の準備、音楽演奏の練習など、児童が主体的に交流を迎えるための準備を行った。
- ・在籍校では、保護者による自己紹介と質問タイムを設定し、児童の理解を促進した。
- ・手拍子や簡単な楽器など、参加しやすい活動構成にした。



○取組の効果

- ・多人数の中でも落ち着いて参加し、友達の声かけに反応する姿が見られた。
- ・リズム活動では同じ班の友達とテンポを合わせて、保護者の方と一緒に取り組む姿が見られた。
- ・保護者への質問を通して「どう関わればよいか」を学び、優しい働きかけが見られた。
- ・保護者からは「多くの刺激を受けて良い経験だった」「理解が広がる良い機会になった」という感想が得られた。
- ・校内放送での交流紹介や、昼休みに他学級の児童も自然に関わりに来るなど、学校全体で交流を受け入れる雰囲気や育ち、継続した交流の意欲につながった。

英語と手話で広がるつながり

一人とかかわる楽しさを実感する交流

交流及び共同学習の詳細 「特別支援学校 中学部 2年生 と 中学校 特別支援学級との交流」

○取組内容

- ・生活単元学習「楽しい交流学習にしよう」と、交流籍校の英語の授業を関連させて交流を実施した。
- ・英語活動（サンドウィッチ作りゲーム）、学校Q&A、手話で歌う「ありがとうの歌」など、多様な活動を行い、人と関わる経験を積んだ。
- ・生徒は英語でのやりとりに前向きに取り組み、手話を教えるなど、積極的に交流する姿が見られた。

○取組の工夫

- ・夏休み期間に電話・メール・学校訪問を通して、活動内容・英語学習の流れ・安全面を事前に確認した。
- ・事前オンライン交流で自己紹介を行い、「どんな交流にしたいか」という目標を共有した。
- ・在籍校では、交流タイムで話す内容をまとめた台本カードを作成し、安心して発表できるよう練習した。
- ・交流籍校では、教室の飾りつけを行い、歓迎の雰囲気づくりをして生徒が参加しやすい環境を整えた。

○取組の効果

- ・英語活動では「What do you want?」のやり取りがスムーズにでき、サンドウィッチ完成の発表も自信をもって行うことができた。
- ・手話活動では、基本の手話を交流先の生徒に伝え、「みんな上手!」と声をかけるなど、教える立場として関わる姿も見られた。
- ・学校Q&Aでは、自分の学校生活について質問に答え、事前練習したカードを活用して安心して発言できた。
- ・両校の生徒が積極的に交流し、終始笑顔で参加する様子から、互いに「人とかかわる楽しさ」を実感できた。
- ・今後も手紙のやり取りやオンラインでの交流を予定しており、継続した関係づくりにつながっている。



クイズと音楽で深まるつながり

—一緒に活動を楽しむオンライン交流—

交流及び共同学習の詳細 「特別支援学校 中学部 2年生 と 中学校 2年生との交流」

○取組内容

- ・ 特別活動「交流籍交流をしよう」と交流籍校の学級活動を関連させ、オンライン交流を実施した。
- ・ クイズ・合唱動画の視聴・感想交流を行い、互いの学校や活動への理解が深まった。
- ・ 在籍校は「好きなこと」をテーマにクイズで自己紹介し、交流籍校は赤・青の場所に移動して回答した。
- ・ 交流籍校からの中学校紹介クイズには、在籍校の生徒が赤・青のカードで回答した。
- ・ 交流籍校は、学年合唱の動画を紹介し、在籍校は、地域の合唱団との活動やバランスボールを使ったリズム活動の様子を紹介し、互いに感想を伝え合った。

○取組の工夫

- ・ オンライン接続や動画視聴環境を事前に確認し、当日の流れをメールで共有した。
- ・ 交流籍校では実行委員が中心となり、会の進行や活動内容を企画し、クイズはタブレットで作成するなど、生徒主体の運営を行った。
- ・ 在籍校では、自己紹介やクイズの台本を準備し、分かりやすく伝えられるよう丁寧に練習した。



○取組の効果

- ・ クイズや合唱動画を通して、お互いの学校生活を知る良い機会となった。
- ・ 音楽が好きな生徒は合唱動画に反応し、笑顔で見入る姿が見られ、音楽を介した交流の効果が大きかった。
- ・ 感想交流では「楽しかった」「良い経験になった」という前向きな声が多く、交流への意欲が高まった。
- ・ 在籍校の教師から「歌声に感動した」「生徒の表情が生き生きしていた」といった肯定的な評価があり、交流の意義が再確認された。

秋の遊びで育つやさしさとつながり

—一緒に遊ぶ中でかかわりながら育つ交流—

交流及び共同学習の詳細 「特別支援学校 小学部1年生 と 小学校1年生・年長児との交流」

○取組内容

- ・生活単元学習「楽しい秋いっぱい いっしょにあそぼう」と、交流籍校の生活科を関連させて交流を実施した。
- ・交流籍校の児童と年長児と一緒に図書館・音楽室などを学校見学をし、また他のグループのお店（どんぐりコロコロゲーム、どんぐり楽器）の様子を見学することで、交流の雰囲気になんげに慣れることができた。
- ・魚釣りのお店では、来店した年長児に釣り竿を渡す姿が見られた。

○取組の工夫

- ・年間交流計画を年度当初に相談し、交流の場面・教科を見通しながら準備を進めた。
- ・運動会練習を一緒に行うなど、日常的な関わりを積み重ね、児童が安心して交流に参加できる環境を整えた。
- ・事前学習では、おもちゃづくり・グループ決め・お店屋さんの練習に取り組み、仲の良い友達と一緒に活動できるように配慮した。
- ・家庭とも連携し、当日の活動に向けて魚釣りのお店の練習を家庭でも行ってもらうことで、自信をもって交流に臨めるようにした。



○取組の効果

- ・年長児から「優しく渡してくれて嬉しかった」という声をもらい、児童自身も喜びを感じることができた。
- ・年間を通した交流により、児童は集団の中で自分の力を発揮できる場面が増えた。
- ・中休みに交流籍校の児童に誘われ、一緒に遊ぶ姿が見られるなど、地域の仲間として自然な関係が育っている。
- ・保護者からは「交流を楽しみにしている」「名前を呼んで関わってくれることが嬉しい」という声があり、交流が児童にとって大きな励みとなっている。

つながりの中で生まれる気づきと学び

—小グループで広がる発想と対話の交流—

交流及び共同学習の詳細 「特別支援学校 小学部4年生 と 小学校4年生との交流」

○取組内容

- ・ 図工「光とかげから生まれる形」と道徳「梨の実—アンリ＝ファール」の時間に、4年2組と交流を行った。
- ・ 図工では、持ち寄った身近な物を組み合わせ、ライトを当てて生まれる影の形を小グループで楽しんだ。
- ・ 道徳では、「正直・誠実」について少人数グループで話し合い、友達の意見をじっくり聴いたり、共感を示したりしながら考えを深めた。

○取組の工夫

- ・ 第1回交流（7月）で道徳と国語の授業を実施し、児童が「友達の意見を聴けておもしろかった」と感じたことから、第2回も道徳で交流を行うことにした。
- ・ 交流前には、使用する教科・配慮事項・授業の流れ・準備物について事前打ち合わせを行い、安心して参加できる環境づくりを進めた。
- ・ 図工では、自由な発想を出し合いながら取り組める活動を設定し、友達との協働が自然に生まれるよう工夫した。



○取組の効果

- ・ 図工の活動では、持ってきた物を組み合わせたり、光の当て方を工夫したりする中で、友達のアイデアに触れながら楽しむ姿が見られた。
- ・ 道徳では、仲間の話をよく聴き、うなずきながら共感を示すなど、他者の意見を受け止める姿が見られた。
- ・ 毎年交流を重ねている学級ということもあり、「同じ仲間」として自然に関わる様子が見られた。もっと関わりたいと感じる児童もおり、交流への主体的な意欲が高まっている。
- ・ 児童・保護者からは、「小グループでの活動が楽しかった」「友達の意見を聴くのがおもしろかった」「地域で会ったときに声をかけてもらえて嬉しかった」という声があった。